

B—71 被服構成に関する教材研究

—ステンカラーにおける一つの考察—

岐阜女短大 道家 三季
○大竹 節子

1. 本研究はウエスト原型と同じ目的をもってステンカラーの考察を行なった。

2. 頸部の傾斜角度を中心に衿腰の形態並びに上衿のあり方について折山線と接点の定位置を考察した。次に衿倒しの量および位置をいかに扱うかについて考察した。尚、衿ぐりの変化によって折山線がどのように動くかについて衿腰を1 cm～4 cmまでのと定めて本研究を行なった。

3. 頸部の傾斜角度によって衿倒しの量を N.P. と接点に分割することが好ましいと考えられる。しかし、原型の衿ぐりの形の変化によって、その量と位置はいくぶんの差があることが認められた。